

基本計画書

基本計画												
事項	記入欄						備考					
計画の区分	研究科の設置											
フリガナ	ガッコウホクシニホンフクシダイク 学校法人 日本福祉大学											
大学の名称	ニホンフクシダイクダクイン 日本福祉大学大学院 (Nihon Fukushi University Graduate School)											
大学本部の位置	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6											
大学の目的	日本福祉大学は教育基本法と建学の精神「この悩める時代の苦難に身をもって当たり大慈悲心大友愛心を身に負うて社会の革新と進歩のために挺身する志の人を輩出する」に則り、教育標語「万人の福祉のために真実と慈愛と献身を」のもと、人間および社会に関する諸科学を総合的に教授研究し、高潔なる人格と豊かなる思想感情を培い、社会にとって有為な専門家であり、かつ地域社会に貢献できる人材を養成することを目的とし、広く人類社会の発展に寄与することを使命とする。											
新設学部等の目的	スポーツ科学に関わる専門的で高度な知識及び技能を有し、これに関わる理論の探求と実践的な研究成果を構築し、スポーツ科学の発展に寄与できる高度専門職業人を養成する。加えて、多様なスポーツニーズへの理解、スポーツにおける倫理観を有し、スポーツ・体育の現場やそれを取りまく社会における課題を解決することで、スポーツ文化を発展、継承できる人材を養成するために、本学スポーツ科学部を基礎とした大学院修士課程を設置する。											
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地				
	スポーツ科学研究科 [Graduate School of Sport Sciences] スポーツ科学専攻 [Division of Sport Sciences] 計	年 2	人 10	年次人 -	人 20	修士(スポーツ科学) (Master of sport Sciences)	令和3年4月 第1年次	愛知県知多郡美浜町大字奥田字会下前35番6				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		入学定員の変更 日本福祉大学 健康科学部 福祉工学科〔定員増〕 (30) (令和3年4月) ※収容定員に係る学則変更認可申請予定										
教育課程	新設学部等の名称		開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
	スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻		講義	演習	実験・実習	計	30 単位					
		21科目		7 科目	0 科目	28科目						
教員組織の概要	学部等の名称				専任教員等					兼任教員等		
	新設分	スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻 修士課程				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
		計				人	人	人	人	人	人	
						8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	2 (2)
						8 (8)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	-
教員組織の概要	学部等の名称				専任教員等					兼任教員等		
	既設分	社会福祉学研究科 社会福祉学専攻 修士課程 (通信教育)				教授	准教授	講師	助教	計	助手	
						人	人	人	人	人	人	
						13 (14)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	18 (19)	0 (0)	9 (9)
		社会福祉学研究科 心理臨床専攻 修士課程				1 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	7 (9)	0 (0)	3 (3)
		医療福祉マネジメント研究科 医療福祉マネジメント専攻 修士課程				10 (11)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	14 (15)	0 (0)	12 (12)
		国際社会開発研究科 国際社会開発専攻 修士課程 (通信教育)				4 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (5)	0 (0)	11 (11)
		看護学研究科 看護学専攻 修士課程				6 (9)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (16)	0 (0)	2 (2)
		福祉社会開発研究科 社会福祉学専攻 博士課程				10 (11)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (14)	0 (0)	2 (0)
		福祉社会開発研究科 福祉経営専攻 博士課程				4 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (5)	0 (0)	2 (2)
福祉社会開発研究科 国際社会開発専攻 博士課程 (通信教育)				3 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (4)	0 (0)	3 (3)		
		計				51 (62)	25 (25)	0 (0)	0 (0)	76 (87)	0 (0)	-
		合計				59 (70)	29 (29)	0 (0)	0 (0)	88 (99)	0 (0)	-

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		110 人 (109)	30 人 (36)	140 人 (145)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	1 (1)	2 (2)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		111 (110)	31 (37)	142 (147)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	175,697.85 m ²	0 m ²	0 m ²	175,697.85 m ²					
	運 動 場 用 地	58,263.63 m ²	0 m ²	0 m ²	58,263.63 m ²					
	小 計	233,961.48 m ²	0 m ²	0 m ²	233,961.48 m ²					
	そ の 他	35,892.68 m ²	0 m ²	0 m ²	35,892.68 m ²					
合 計		269,854.16 m ²	0 m ²	0 m ²	269,854.16 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
		78,969.05 m ² (78,969.05m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	78,969.05 m ² (78,969.05m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	132室	147 室	101 室	13 室 (補助職員30人)	0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数						
		スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻		11 室						
図書・設備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 586,843冊 〔112,662冊〕 学術雑誌 5,010種 〔 1,170種〕 電子ジャーナル 7,378種 〔 5,939種〕	
	スポーツ科学研究科 スポーツ科学専攻		4,852 [832] (4,012 [752])	170 [49] (170 [49])	3,410 [2,627] (3,410 [2,627])	260 (220)	217 (217)	1 (1)		
	計		4,852 [832] (4,012 [752])	170 [49] (170 [49])	3,410 [2,627] (3,410 [2,627])	260 (220)	217 (217)	1 (1)		
図書館		面積	閲覧座席数		取 納 可 能 冊 数					
		5,184.56 m ²	905席		788,625 冊					
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						大学全体	
		3,718.29 m ²	球技場、野球場、アーチェリー場、屋内練習場、武道場、プール (1施設)、トレーニング室 (1施設)、テニスコート (4面+2面)							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	※研究科単位での算出不能なため、学部との合計 ※共同研究費等は大学全体 ※図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
		教員1人当り研究費等	/	550千円	550千円	/	/	/	/	
		共同研究費等	/	16,500千円	16,500千円	/	/	/	/	
		図書購入費	2,522千円	2,522千円	2,522千円	/	/	/	/	
	設備購入費	3,931千円	0千円	0千円	/	/	/	/	/	
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		942,5千円	742,5千円	/千円	/千円	/千円	/千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資金運用・事業収入等を充当する。							

大 学 の 名 称		日本福祉大学							
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
社会福祉学部 社会福祉学科	4	400	40	1,680	学士 (社会福祉学)	1.00 1.00	昭和32年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番6	平成29年度より 定員変更
経済学部 経済学科	4	200	—	800	学士 (経済学)	0.97 0.97	昭和51年度	愛知県東海市大田町 川南新田229	
健康科学部 リハビリテーション学科 理学療法専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	1.08 1.04 1.21	平成20年度	愛知県半田市東生見町 26番2	
作業療法専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	1.12	平成20年度	同 上	
介護学専攻	4	40	—	160	学士 (健康科学)	0.78	平成20年度	同 上	
福祉工学科	4	70	—	280	学士 (健康科学)	1.15	平成20年度	同 上	令和3年度 入学定員増予定 (30人)
子ども発達学部 子ども発達学科	4	215	—	790	学士 (子ども発達)	0.91 0.90	平成20年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番6	令和元年度より 定員変更
心理学科	4	100	—	470	学士 (心理臨床学)	0.94	平成20年度	同 上	
国際福祉開発学部 国際福祉開発学科	4	80	—	320	学士 (国際福祉開発学)	0.90 0.90	平成20年度	愛知県東海市大田町 川南新田229	
看護学部 看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.03 1.03	平成27年度	同 上	
スポーツ科学部 スポーツ科学科	4	180	—	720	学士 (スポーツ科学)	1.06 1.06	平成29年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番6	
福祉経営学部 医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	4	800	400	4,000	学士 (福祉経営学)	0.80 0.80	平成15年度	同 上	
大 学 の 名 称		日本福祉大学大学院							
学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
社会福祉学研究科 心理臨床専攻修士課程	2	10	—	20	修士 (心理臨床)	1.16 1.05	平成15年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号	
社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	2	30	—	60	修士 (社会福祉学)	1.20	平成16年度	同 上	
医療・福祉マネジメント研究科 医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	2	30	—	60	修士 (医療・福祉 マネジメント)	0.85 0.85	平成21年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号	
国際社会開発研究科 国際社会開発専攻 修士課程(通信教育)	2	25	—	50	修士 (開発学)	0.74 0.74	平成14年度	愛知県知多郡美浜町 大字奥田字会下前35番6	
福祉社会開発研究科 社会福祉学専攻博士課程	3	8	—	24	博士 (社会福祉学)	0.87 1.20	平成19年度	愛知県名古屋市中区 千代田五丁目22番35号	
福祉経営専攻博士課程	3	2	—	6	博士 (福祉経営)	0.33	平成19年度	同 上	
国際社会開発専攻 博士課程(通信教育)	3	4	—	12	博士 (開発学)	0.50	平成19年度	同 上	
附属施設の概要		該当なし							

教育課程等の概要

(スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	研究 方法 論 科目	スポーツ科学研究方法特論	1前	2			○			7	4					オムニバス
	スポーツ 文化 科目群	スポーツ共生社会特論	1前	2			○			1						
		スポーツインテグリティ特論	1前	2			○				1					
		障害者スポーツ実践特論	1前	2			○			1						
		発育発達学特論	1前	2			○			1						
	小計(5科目)	—	6	4	0		—		7	4	0	0	0	0		
専門科目	身体 運動 ・ コー チ 科 学 科 目 群	身体運動学特論	1前	2			○			1						
		スポーツコーチング特論	1後	2			○			1						
		スポーツ心理学特論	1前	2			○			1						
		スポーツメンタルトレーニング特論	1後	2			○			1						
		実践トレーニング特論	1前	2			○			1						
		環境生理学特論	1前	2			○				1					
		スポーツ理学療法学特論	2前	2			○			1						
		スポーツ医学特論	1前	2			○									兼1
	スポーツ栄養学特論	1後	2			○									兼1	
	スポ ーツ 人 文 ・ 社 会 科 学 科 目 群	スポーツ哲学特論	1前	2			○				1					
		スポーツ史特論	1後	2			○			1						
		スポーツ社会学特論	1後	2			○			1						
		スポーツビジネス特論	1前	2			○				1					
スポーツマネジメント特論		1後	2			○				1						
スポーツ人類学特論	1後	2			○			1								
保健体育科教育特論	1後	2			○			2								
	小計(16科目)	—	0	32	0		—		8	4	0	0	0	兼2		
展 開 科 目	コ ー チ 科 目 群	スポーツコーチング演習A	2前	2			○		1	1					共同	
		スポーツコーチング演習B	2前	2			○		2						共同	
	ス ポ ー ツ 社 会 科 学 科 目 群	スポーツフィールドスタディ演習A	2前	2			○		2						共同	
		スポーツフィールドスタディ演習B	2前	2			○		1	1					共同	
	小計(4科目)	—	0	8	0		—		6	2	0	0	0	0		
研 究 指 導 科 目	スポーツ科学研究Ⅰ	1後	2			○		8	4							
	スポーツ科学研究Ⅱ	2前	2			○		8	4							
	スポーツ科学研究Ⅲ	2後	2			○		8	4							
		小計(3科目)	—	6	0	0		—	8	4	0	0	0	0		
合計(28科目)			—	12	44	0	—	8	4	0	0	0	兼2			
学位又は称号	修士(スポーツ科学)	学位又は学科の分野			体育関係											
修了要件及び履修方法						授業期間等										
本研究科に2年以上在学し、基礎科目から8単位以上(必修6単位を含む)、専門科目から14単位以上(研究領域の科目群からの8単位以上を含む)、展開科目2単位以上、研究指導科目6単位、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文審査及び最終試験に合格すること。						1学年の学期区分			2学期							
						1学期の授業期間			15週							
						1時限の授業時間			90分							

教育課程等の概要

(スポーツ科学部スポーツ科学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目	こころとからだ	1前		2		○									兼1
	視覚障害者支援論	1前		1		○									兼1
	ろう文化と手話	1前		2		○									兼1
	聴覚障害者の理解と支援	1前		1		○									兼1
	ふくしとフィールドワーク	1前		2			○								兼1
	法入門	1前		2		○									兼1
	福祉社会入門	1前		2		○									兼1
	知多学	1前		2		○									兼1
	経営学	1前		2		○									兼1
	統計学	1前		2		○									兼1
	社会学	1前		2		○									兼1
	哲学	1前		2		○									兼1
	キャリア開発 I	1前		2		○									兼1
	日本福祉大学の歴史	1後		2		○									兼1
	地震と減災社会	1後		2		○									兼1
	日本国憲法	1後		2		○									兼1
	フレッシュマンイングリッシュ I-1	1前	1				○								兼4
	フレッシュマンイングリッシュ I-2	2前		1			○								兼1
	フレッシュマンイングリッシュ II-1	1後	1				○								兼4
	フレッシュマンイングリッシュ II-2	2後		1			○								兼1
	情報処理演習 I	1前	2				○								兼2
	情報処理演習 II	1後		2			○								兼2
	海外フィールドワーク	1後		4				○							兼1
	スポーツ実技	1通	2				○					2			兼9
	政治学	2前		2		○									兼1
	福祉の力	2前		2		○									兼1
	キャリア開発 II	2前		2		○									兼1
	コミュニケーション力演習	2前		2		○									兼1
	スポーツイングリッシュ I	3前		1			○								兼1
	経済学	2後		2		○									兼1
	文章作成力演習	2後		2		○									兼2
	ふくしと減災コミュニティ	2後		2		○									兼1
	知多半島のふくし	2後		2		○									兼1
	スポーツイングリッシュ II	3後		1			○								兼1
	生命と環境	3前		2		○									兼1
	ふくしフィールドワーク実践	3後		2			○								兼3
	海外英語研修	1後		2			○								兼1
小計 (37 科目)		—	6	63	0	—			0	0	0	2	0	兼40	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科目	生理学	1前		2		○			1	1]		オムニバス
	スポーツ科学入門	1前	2			○			5	3		5		オムニバス
	スポーツ史	1前		2		○			1					
	スポーツ文化論	1前		2		○			1					
	スポーツビジネス	1前		2		○								兼1
	発育発達論（運動発達・認識発達・ことばの発達）	1前		2		○								兼1
	機能解剖学	1後		2		○			1					
	認知心理学	1前		2		○			1			1		
	健康管理概論	1前		2		○			1					
	学校保健A（小児・精神）	1前		2		○			1					
	野外スポーツ論	1前		2		○					1			
	スポーツ社会学	1後	2			○			1					
	ふくしスポーツ論	1後	2			○			1					
	スポーツ哲学	1後	2			○					1			
	スポーツマネジメント	1後		2		○						1		
	スポーツ教育学	1後		2		○					1			
	スポーツキャリア教育	1後		2		○			1					
	スポーツ統計学	1後		2		○								兼1 ※演習
	スポーツと脳	1後		2			○		1			1		オムニバス一部共同
	スポーツ生理学	1後	2			○					1			
	スポーツ心理学	1後		2			○		1					
	障害者スポーツ論	2前	2			○						1		
	スポーツ倫理学	2前		2		○					1			
	スポーツ支援者論	2前		2		○			1					
	身体表現・芸術表現論	2前		2		○						1		
	スポーツ・運動指導者論	2前		2		○			1					
	スポーツ医学A（内科系）	2前		2		○			1					
	スポーツ栄養学	2前		2		○						1		
	コーチング科学	2前		2		○								兼1
	特別支援教育論	2前		2		○			1			1		
	肢体不自由児教育論	2前		2		○			1					
	スポーツバイオメカニクス	2前		2		○			1					
	スポーツ人類学	2後		2		○			1					
	地域スポーツ論	2後		2		○			1			1		共同
武道論	2後		2		○								兼1	
スポーツジェンダー論	2後		2		○					1				
スポーツ医学B（外科系）	2後		2		○			1						
トレーニング科学	2後	2			○					1				
測定・評価	2後		2			○					1		兼1	
メンタルトレーニング	2後		2			○		1			1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	知的障害児教育論	2後		2		○									兼1	オムニバス 一部 集中 共同 オムニバス 集中 集中 集中
	スポーツ科学演習	2通	2				○		2	3		3			兼1	
	スポーツコミュニケーション	3前		2		○									兼1	
	スポーツメディア論	3前		2		○									兼1	
	レクリエーション理論	3前		2		○									兼1	
	衛生・公衆衛生学	3前		2		○			1							
	学校保健B（学校・救急処置）	3前		2		○			1							
	肢体不自由児の心理	3前		2		○			1						兼1	
	肢体不自由児の生理と病理	3前		2		○									兼1	
	障害者スポーツ指導法演習A	3前		1			○			1						
	ふくしスポーツ演習	3前		4			○		1			1				
	スポーツ政策・行政論	3後		2		○									兼1	
	スポーツ法学	3後		2		○									兼1	
	アスレティックリハビリテーション	3後		2		○									兼1	
	加齢学	3後		2		○			1	1						
	肢体不自由児指導法	3後		2		○			1							
	障害者スポーツ指導法演習B	3後		1			○			1						
	コンディショニング演習	3前		2			○			1					兼1	
	スポーツフィールドワークⅡ-1	4前		2			○			1					集中	
	スポーツフィールドワークⅡ-2	4後		2			○		1						集中	
	専門実技（ダンス）	1前		1			○					1				
	専門実技（野外運動A）	1前		1			○			1					集中	
	専門実技（陸上）	1後		1			○								兼3	
	専門実技（バスケットボール）	1後		1			○								兼1	
	専門実技（器械運動）	2前		1			○								兼1	
	専門実技（水泳）	2前		1			○		1							
	専門実技（バレーボール）	2前		1			○								兼1	
	専門実技（柔道）	2後		1			○								兼1	
	専門実技（アダプテッド・スポーツ）	2後		1			○			1		1				
	専門実技（サッカー）	2後		1			○								兼1	
	専門実技（バドミントン）	2後		1			○					1				
	専門実技（野外運動B）	2後		1			○			1					集中	
	専門実技（野外運動C）	3前		1			○		1						集中	
	専門実技（ソフトボール）	3前		1			○								兼1	
専門実技（テニス）	3前		1			○					1			兼1		
専門実技（卓球）	3前		1			○								兼1		
専門実技（剣道）	3前		1			○								兼1		
スポーツ指導法演習（陸上）	2前		1			○								兼1		
スポーツ指導法演習（バスケットボール）	2前		1			○								兼1		
スポーツ指導法演習（水泳・水中運動）	2後		1			○								兼1		
スポーツ指導法演習（ダンス）	2後		1			○					1			兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	スポーツ指導法演習（バレーボール）	3前		1			○		1						兼1
	スポーツ指導法演習（サッカー）	3後		1			○								兼2
	スポーツ指導法演習（テニス）	3後		1			○					1			兼1
	スポーツ指導法演習（バドミントン）	3後		1			○					1			兼1
	スポーツ指導法演習（卓球）	3後		1			○								兼1
	スポーツ指導法演習（ゴルフ）	4前		1			○			1					
	スポーツ指導法演習（エアロビクス）	3前		1			○								兼1
	スポーツ指導法演習（レクリエーション・ニュースポーツⅠ）	4前		1			○								兼1
	スポーツ指導法演習（レクリエーション・ニュースポーツⅡ）	4後		1			○								兼1
	保健体育科教育法Ⅰ（授業づくりの基礎理論）	2後		2		○			2						オムニバス一部共同
	保健体育科教育法Ⅱ－A（陸上・器械運動）	3前		2		○									オムニバス一部共同
	保健体育科教育法Ⅱ－B（球技・水泳）	3前		2		○			2						オムニバス一部共同
	保健体育科教育法Ⅱ－C（武道）	3後		2		○									オムニバス一部共同
	保健体育科教育法Ⅱ－D（ダンス・体育理論）	3後		2		○			1			1			オムニバス一部共同
	保健体育科教育法Ⅲ（授業づくり）	3後		2			○		1			1			オムニバス一部共同
	導入ゼミ	1通	2				○			1		7			
	スポーツフィールドワークⅠ	2通	2				○		5	5		6			
	専門演習Ⅰ	3通	2				○		10	4		4			
	専門演習Ⅱ	4通	4				○		10	4		4			
小計（100科目）	—	26	146	0		—		10	5	0	8	0		兼26	
外国人留学生・帰国生徒の特例科目	日本語と文化Ⅰ－1	1前		1		○									兼1
	日本語と文化Ⅰ－2	1後		1		○									兼1
	日本語と文化Ⅱ－1	1前		1		○									兼1
	日本語と文化Ⅱ－2	1後		1		○									兼1
	日本語と文化Ⅲ－1	2前		1		○									兼1
	日本語と文化Ⅲ－2	2後		1		○									兼1
	日本語と文化Ⅳ－1	2前		1		○									兼1
	日本語と文化Ⅳ－2	2後		1		○									兼1
小計（8科目）	—	0	8	0		—		0	0	0	0	0		兼2	

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
自由科目	教職入門（中高）	1前			2	○										兼1
	知的障害児の心理	2前			2	○										兼1
	視覚・聴覚・病弱児論	2前			2	○										兼3
	教育原理B	2前			2	○										兼1
	教育と発達の心理学B	2前			2	○										兼1
	特別支援教育概論（中高）	3後			2	○										兼1
	総合的な学習の時間の指導法（中高）	3前			2	○										兼1
	教育制度論B	2前			2	○										兼1
	教育課程論B	2前			2	○										兼1
	教育相談の基礎と方法B	2前			2	○										兼1
	知的障害児の生理と病理	2後			2	○										兼1
	道徳教育の指導法B	2後			2	○										兼1
	教育方法論B	2後			2	○										兼1
	知的障害児指導法	3前			2	○				1						
	生徒・進路指導論B	3前			2	○										兼1
	発達障害児論	3後			2	○										兼1
	特別支援教育課程論	3後			2	○										兼1
	特別活動方法論B	3後			2	○										兼2
	教育実習ⅠB（事前事後）	3後～4前			1		○		2			1				
	教育実習ⅡB	4前			4			○	1			1				集中
	教育実習ⅢB	4前			2			○	1			1				集中
	障害児教育実習Ⅰ（事前事後）	4前～4後			1		○		1	1		1				
	障害児教育実習Ⅱ	4後			2			○	1	1		1				集中
	教職実践演習（中高）	4後			2		○		3	1						
	健康運動特論Ⅰ	3前			2	○						1				
	健康運動特論Ⅱ	3後			2		○					1				
	健康運動特論Ⅲ	3後			1		○									兼1
健康産業施設現場実習	3前			2			○								兼1	
ビジネススキル	1後			2	○										兼1	
インターンシップⅠ	3・4			1			○								兼1	
インターンシップⅡ	3・4			2			○								兼1	
小計（27科目）		—	0	0	60			—	4	1	0	3	0		兼16	
合計（169科目）		—	32	217	60			—	10	5	0	8	0		兼74	
学位又は称号	学士(スポーツ科学)	学位又は学科の分野					体育関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
4年間以上在学するとともに、総合基礎科目25単位以上、専門科目76単位以上、計124単位以上を修得すること。（履修科目の登録の上限：48単位(年間)）								1 学年の学期区分		2 期						
								1 学期の授業期間		15週						
								1 時限の授業時間		90分						

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

授 業 科 目 の 概 要			
（スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程）			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎科目	スポーツ科学研究方法特論	<p>本授業ではスポーツ科学分野における先行研究分析から、研究テーマや研究目的の設定の仕方、研究フレームの構築方法、適切な研究方法、データ分析の方法について学ぶ。さらに研究者として守るべき倫理について理解し、主体的に研究を進めることができる力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式／全15回）</p> <p>（1 新井博／1回） 質的研究方法①文献研究方法について</p> <p>（2 荒木雅信／3回） オリエンテーション、スポーツ科学研究の意義、先行研究の条件等の重要性について 量的研究方法③スポーツ心理学的実験について</p> <p>本授業のまとめ</p> <p>（3 白石龍生／1回） 質的研究方法③質的研究のまとめ方について</p> <p>（4 藤田紀昭／1回） 研究構想の立て方について</p> <p>（5 吉田文久／1回） 質的研究方法②フィールドワークについて</p> <p>（7 三井利仁／1回） 量的研究方法⑤コーチング科学実験について</p> <p>（8 住田健／1回） 量的研究方法①社会調査方法について</p> <p>（9 竹村瑞穂／1回） 研究者として守るべき規範及び倫理について</p> <p>（10 西村直記／2回） 量的研究方法②スポーツ生理学的実験について 研究構想作成</p> <p>（11 山根真紀／1回） 量的研究方法④トレーニング科学実験について</p> <p>（12 山本真史／1回） 量的研究方法⑥バイオメカニクス実験について</p> <p>（科目担当者全員／1回） 研究構想発表会</p>	オムニバス方式
	スポーツ共生社会特論	<p>共生社会とは何かについて理解したうえで、現在、スポーツの現場においてみられる様々な格差、差別、不平等などの実態について学ぶ。具体的には障害者のスポーツの実態、スポーツにみられる人種差別の実態、スポーツにおけるジェンダー問題、先進国と途上国のスポーツに見られる格差である。さらにこれらの実態を乗り越えようとしている各種事例について知り、スポーツあるいは体育を通しての共生社会の実現の理論と方法を学修する。また、これらに関する最新の研究論文の講義を行う。</p>	
	スポーツインテグリティ特論	<p>競技スポーツ界では倫理的に逸脱するような問題が度々指摘されるが、そのようなスポーツ界における倫理的諸問題について、なにがどのように問題であるのか、本当に問題であるのか、どのように解決策を見出せばよいのか、倫理的視点をもとに考察し、対話を通して議論を深めていく。また、スポーツのインテグリティを脅かそうとする問題について理解し、適切な態度や指導方法を修得することがねらいである。</p>	
	障害者スポーツ実践特論	<p>スポーツ基本法の基本理念には、「障害者が自主的かつ積極的にスポーツを行うことができるよう、障害の種類及び程度に応じ必要な配慮をしつつ推進されなければならない。」とある、本講義では、スポーツへのきっかけ、日常化について理解し、さらに強化方法と環境整備について具体的に理解する。また、ヒトがスポーツを継続するためにはヒトの環境に合わせた指導法について学ぶ。障害者スポーツ指導は状況の違うヒトへのスポーツ指導の基本であり、障がい者だけではなく、広くヒトを指導する基本となることができる。</p>	
	発育発達学特論	<p>発育発達学は、乳幼児期、学童期、青年期および老年期にわたる発育発達に関する課題を明らかにし、それらを解決し、すべての人々の健康の保持増進に寄与するための科学である。日本人の身長最大の発育年齢は戦後急速に若年化したが、近年その傾向は緩やかになり、定常状態となっている。最大発育年齢が若くなるということは、思春期が早く訪れることを意味している。この体の発育に対してころころをはじめとした発達と同時に進行すれば問題はないが、必ずしもそうではないようである。そこで発育発達に関する現代的課題を明らかにし、課題解決に向けた手法を疫学的アプローチを基に新たに学修する。</p>	
専門科目	身体運動学特論	<p>身体運動は脳からの指令によって骨格筋が収縮することで制御される。そのため、身体運動を深く理解するためには力学をはじめとする（狭義の）バイオメカニクスの習得とともに、骨格筋制御の礎である脳など神経系の構造と機能についても十分に習得することが肝要である。そこで本科目では、バイオメカニクスおよび神経科学の視点から、身体運動の仕組みについてより専門的な理解を図るために、両視点での最新の研究知見を含めたレビューを行う。また、本科目で紹介する身体運動研究の知見が、日常生活やスポーツの実践の場でどのように応用され得るか検討を行う。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

(スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	スポーツコーチング特論	<p>コーチングはヒトの能力を向上させる手段であり、この講義では、あらゆるヒトの運動能力をいかに計画的、効率的に向上させていくかを取り上げていく。本特論ではトップアスリートだけではなく広く、コーチングを活かせる知識について理解する。特に構成要素の中でも情報、計画立案について応用的に考える。</p>	
	スポーツ心理学特論	<p>スポーツにおける心理学的諸問題に関する最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向に関する理解を深める。主に、次の4つのテーマに焦点を当てて講義を展開し、スポーツにおけるこころと身体とのつながりについての理解を深める。</p> <p>1) 運動制御と運動学習の理論の理解とその効果的な応用法の検討 2) 運動の認知に関する理論の理解とその応用例の検討 3) 競技者やチームに対して施す心理サポートの理論と技法の理解、その効果と評価の検討 4) 障害のある競技者の心理的変容プロセスに関する理論の理解と事例の検討</p> <p>ここで扱う理論と技法は、学校体育や障害者スポーツの指導にも援用できるので、これに関係する文献や事例についても検討する。</p>	
	スポーツメンタルトレーニング特論	<p>競技者への心理サポートの理論と技法およびその評価法に関する最新の知見と事例を通してその動向についての理解を深める。特に次の4つのテーマに焦点を当てて講義を展開する。</p> <p>1) 競技者やチームに対して行うスポーツメンタルトレーニングやスポーツカウンセリングなどの心理サポートの理論と技法の理解 2) 競技者やチームに施す心理サポートの効果および競技者の心理状態の評価 3) 競技者の人格形成や心理的成長に関する理論の理解と事例の検討 4) 心理サポートと他専門領域サポートの効果的な連携と立ち位置の検討</p> <p>ここで扱う理論と技法は、効果的な指導や競技者および指導者のセカンドキャリア、また障害者スポーツの指導にも関係するので、これに関する文献や事例についても検討する。</p>	
	実践トレーニング特論	<p>人々が運動やスポーツの楽しさを享受しつつ、健康かつ文化的で豊かなスポーツライフを送るためには、健康や体力の保持・増進が重要であることを理解する。さらに加齢とともに低下していく体力を維持あるいは低下の程度をできるだけ抑えるため、あるいは生活習慣病の予防のため運動やスポーツを習慣的に実施しなければならないことを蓄積された科学的知見から理解する。そのうえで、様々な対象の特徴を理解し、科学的知見に基づいたトレーニング処方や安全に立案・活用できる実践力を養う。</p>	
	環境生理学特論	<p>ヒトは様々な環境変化に応じて生理機能を変化させ、生体のホメオスタシスを維持している。本講義では、特にスポーツ時のパフォーマンスと密接に関わり合う高地環境および暑熱・寒冷環境に関する最新の研究内容を取り上げ、アスリートならびに一般人がこれらの環境下でスポーツを実施した際の生理機能の変化について学修するとともに、指導者として活用できる実践力を養う。</p>	
	スポーツ理学療法学特論	<p>スポーツ外傷などにより、スポーツ活動に制約を受けている者への対応の方法と内容について学ぶ。スポーツ外傷の病態と要する評価や理学療法の内容と方法を知り、そこから、安全かつ早期のスポーツ復帰を目標とする対処の考え方や基本的手法の活用方法について理解を深める。スポーツ動作の運動学や動作観察についても内容に含め、外傷発生機転の分析や、スポーツ復帰のための運動療法に応用することも学習する。</p>	
	スポーツ医学特論	<p>スポーツ科学を専攻する者は、将来的には指導者として自立することが期待される。選手を指導するにあたって、選手各々の体調やその変化を把握し、外傷が生じた時の応急処置を理解・実践できることは、指導者として必須である。また、スポーツにおける視覚の関与を理解し、視覚がどのように運動パフォーマンスに結びついているのかを理解する。</p>	
	スポーツ栄養学特論	<p>スポーツ栄養学特論では、競技力の向上を目的としたスポーツ選手の栄養素摂取や栄養管理の基礎と応用を学修する。さらに、社会的関心の高まりに応じ、非鍛錬者における体力の保持・増進についての観点とも関連させながら、健康づくりのための運動と栄養の関連性についても学ぶ。具体的な内容としては、消化・吸収のメカニズムに始まる栄養学の基礎、身体活動量とエネルギー必要量について、身体組成について、水分やサプリメントの摂取法、体づくり・スタミナづくりのための食事法に代表される各種目的に応じた食事法などについて、最新の知見に踏み込んで学修する。</p> <p>スポーツ栄養学の分野は、とりわけスポーツ生理学、スポーツ生化学、スポーツ医学の分野と関連が深いため、各領域との学際的先端領域のテーマについても積極的に取り上げる。</p>	

授 業 科 目 の 概 要 (スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	スポーツ哲学特論	スポーツの本質とは何かに迫ることがねらいである。しかし、その前提として、スポーツの本質とはなにか、という問いそのものに対する哲学的探究が求められる。そもそもスポーツに本質があるのかどうか、問いの設定の妥当性も含めて学習し、スポーツのエトス（内在的目的）や価値について理解を深める。そのために、考察の枠組みとなる哲学理論（分析哲学および大陸合理論）についても授業の中で学習する。そのうえで、身体教育とスポーツの違い、スポーツと芸術の異同、eスポーツなどニューススポーツの概念把握などについて理解を深めていく。	
	スポーツ史特論	中世末のイギリスでは、地方の大土地所有者であるジェントリーたちが、フィールドスポーツと言われる狩や釣りなどのスポーツに興じていた。18世紀イギリスに起こった産業革命により、囲い込みにより農村部から都市部に移動した労働者たちが工場労働者となり、ヒマと金をもった新興ブルジョアジーが誕生し、ゴルフ、クリケット、ボートなどのスポーツに興じるようになった。それらが具体的な適用について検討する。	
	スポーツ社会学特論	本授業ではスポーツ界に生じている様々な事象を単に要因等を説明するだけでなく、各種理論を用いて理解し、その要因や課題解決に向けての手がかりを得られるようにする。まず最初にスポーツ社会学で用いられてきた各種理論（プレイ論、スポーツの社会化論、スポーツ近代化論、構造機能主義、マルクス主義、カルチュラルスタディーズ）について理解し、これらを用いた所論を講読して理解を深めるさらにスポーツ事象について自ら読み解き議論する。	
	スポーツビジネス特論	現代のスポーツビジネスは、グローバル化、テクノロジーの進化に影響を受け急速に成長している産業である。そのような中、消費者のスポーツに対するニーズは多様化し、スポーツ事業に関わる現象も複雑になってきている。本特論では、現代のスポーツビジネスの課題をマーケティングの理論・手法を理解し、援用することで解決するための手法を身につけることを目的とする。	
	スポーツマネジメント特論	スポーツマネジメントとは、スポーツ組織が持つヒト・モノ・カネ・情報の経営資源を効率的に活用し、スポーツの付加価値を生み出す作業のプロセスである。そのため、スポーツマネジメントが対処とする組織の範囲は、地域の市民クラブから世界を代表するプロスポーツクラブにまで渡る。本特論では、現代のスポーツ組織が抱える課題を、市場環境と組織のマネジメントの観点から学修する。また、スポーツマネジメントを深く理解するために、スポーツマネジメントに必要な財務知識と法知識についても取り上げる。	
	スポーツ人類学特論	世界各地には、近代化しないままの形で様々な土着の伝統スポーツが存続し、その土地に根差す文化として、人々の生活と一体化し、そこには、人間が生きていく楽しみを創造する知恵が盛り込まれている。彼らが行為主体（Agent）として、その伝統スポーツを存続・継承する姿からは、現代におけるスポーツの主体者形成の問題ははじめ、スポーツ現場で生じている課題を解決したり、地域の諸課題を解決するためのヒントを得ることができる。本科目では、スポーツ人類学のこれまでの研究成果及び研究方法を分析・検討し、自らがフィールドに出て調査し、記述する作業に取り組む。その作業をもとに、人間にとってのスポーツの意味、スポーツのもつ文化的価値について考察し、多文化共生の視点から主体性をもってスポーツの発展に寄与する行動について各自が提案する内容を集団で検討し、改めて自身の役割、社会貢献の仕方について確認することをねらいとする。	
	保健体育科教育特論	教育実習ははじめ教育現場での授業実践を経験し、また参観してきたことをもとに、保健体育科教育関係の雑誌、学会発表や論文における体育実践の現状、研究成果や課題を整理し、現場に直結し、PDCAサイクルに基づく保健及び体育の授業づくりについて検討する。ここでは、異質協同、インクルーシブ体育を土台として、生徒の多様性に的確に対応できる体育教師の資質を身につけ、さらに、保健体育という教科の存立基盤を明らかにする議論を含める。	共同
展 開 科 目	スポーツコーチング演習 A	<p>コーチ科学におけるスポーツ心理学の現場的活用に関する最新の知見を概観し、当該領域の動向に関する理解を深め、その現場的活用法を理解する。主に、次の2つのテーマに焦点を当てて実験実習を展開し、コーチ科学におけるスポーツ心理学の立場と活用の可能性について展望し理解を深める。</p> <p>1) 運動制御と運動学習、認知に関する実験法とその現場的活用と評価法について実験実習を通して理解する 2) SMT講習会の企画および実施に参加して、各セッションのアシスタントをしてSMTの技法と評価を理解する</p> <p>ここで行う実験実習（運動学習、運動認知）では、情動・感情の働きについても検討を行う。 また本演習は日本スポーツ心理学会認定SMT指導士資格の申請に必要な単位数に換算される。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
展開科目	スポーツコーチング演習 B	前半は、学士過程で学んだ基礎的な理論、知識、技能を土台として、スポーツ現場に求められているニーズを的確に把握し、そのためのサポートや指導を実践するための方法論を学ぶ。特に全体に共通する指導理論、具体的には科学的なウォーミングアップとクールダウン、IT機器を活用した動作分析方法などの理解を深めるとともに、専門とする1種目については、初心者から中級者レベルまで指導できるスキルを学修する。後半は、それらの専門的知識および指導能力をスポーツ現場で実践し、高度な指導力を身につける。	共同
	スポーツフィールドスタディ演習 A	本授業では、学校における体育指導についての高度な専門的理論、知識、技能を獲得することを目的としている。地域の小学校、中学校または高等学校をフィールドスタディーの場として設定し、学校現場における課題に真摯に取り組むとともに高い教授技術を身につける。具体的活動としては、生徒および指導者の行動の観察、指導の補助、自らによる実践などに取り組み、学校現場で取り組まれているスポーツ活動の実態について学ぶとともに、見出せる課題解決に向けた提案を行い、高度専門職業人としての実践力を身につける。	共同
	スポーツフィールドスタディ演習 B	本授業ではスポーツに関わる各種団体（全国レベルのスポーツ協会、地域のスポーツ協会、スポーツ支援団体等）においてスタッフとして関わり、わが国のスポーツ関連団体の実態について学ぶとともに、各組織における課題解決に向けた提案を行い、高度専門職業人としての実践力を身につける。	共同
研究指導科目	スポーツ科学研究 I	<p>本授業では適切な研究計画の作成に向けて、先行研究の件等、研究目的と意義の確認、研究フレームの検討、研究倫理審査に向けた準備を行う。</p> <p>(1 新井 博) スポーツ史分野の研究指導を行う。ヨーロッパ、アメリカ、日本を含むアジア諸国における各時代におけるスポーツの実態や普及、組織化等に関する研究を指導する。</p> <p>(2 荒木雅信) スポーツ心理学分野の研究指導を行う。運動制御や運動学習、運動認知やメンタルトレーニング等選手や運動実践者の心理サポート等に関する研究を指導する。</p> <p>(3 白石龍生) 発育発達学、学校保健分野の研究指導を行う。運動や生活等各種条件による身体発育、発達の違い、学校の安全性や、児童生徒の健康、保健等に関する研究を指導する。</p> <p>(4 藤田紀昭) スポーツ社会学、障害者スポーツ分野の研究指導を行う。障害者のスポーツを含むスポーツ事象の発生機序、意味や構造、メディア分析、歴史社会学等の研究を指導する。</p> <p>(5 吉田文久) スポーツ人類学分野の研究指導を行う。伝統スポーツの伝承や存続条件、各時代、社会における生活構造とスポーツ文化の関係性や変遷の実態等に関する研究を指導する。</p> <p>(6 小林寛和) スポーツ理学療法分野の研究指導を行う。スポーツ動作、スポーツ障害の発生機序と防止方法、スポーツリハビリテーションの方法や効果等に関する研究を指導する。</p> <p>(7 三井利仁) 健常者および障害者のスポーツコーチング分野。健常者および障害者のコーチングの方法、コーチングに関するデータと分析、リスクマネジメントに関する研究を指導する。</p> <p>(8 住田 健) スポーツマネジメント、スポーツビジネス分野の研究指導を行う。スポーツ組織のマネジメントに関わる諸課題、法律やファイナンス、スポーツ消費者やマーケットセグメンテーション等に関する研究を指導する。</p> <p>(9 竹村瑞穂) スポーツ哲学、スポーツ倫理学分野の研究指導を行う。スポーツの価値、本質論、スポーツのエトスや倫理、インテグリティ、アンチドーピング等に関する研究を指導する。</p> <p>(10 西村直記) スポーツ生理学、環境生理学分野の研究指導を行う。高地環境下、寒冷環境下、暑熱環境下でのトレーニング効果や生理機能の変化、運動と熱中症や体温調節等に関する研究を指導する。</p> <p>(11 山根真紀) トレーニング方法分野の研究指導を行う。各ライフステージにおけるトレーニング効果、効果的かつ安全な運動処方、女性のトレーニング等に関する研究を指導する。</p> <p>(12 山本真史) 身体運動学分野の研究指導を行う。身体構造と機能、スポーツバイオメカニクス、運動と神経科学、運動制御に関する研究テーマを指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	スポーツ科学研究Ⅱ	<p>本授業では研究計画に従って、研究倫理申請を通すとともに、適切な方法で調査、実験を実施し、その結果を分析する。</p> <p>(1 新井 博) スポーツ史分野の研究指導を行う。ヨーロッパ、アメリカ、日本を含むアジア諸国における各時代におけるスポーツの実態や普及、組織化等に関する研究を指導する。</p> <p>(2 荒木雅信) スポーツ心理学分野の研究指導を行う。運動制御や運動学習、運動認知やメンタルトレーニング等選手や運動実践者の心理サポート等に関する研究を指導する。</p> <p>(3 白石龍生) 発育発達学、学校保健分野の研究指導を行う。運動や生活等各種条件による身体発育、発達の違い、学校の安全性や、児童生徒の健康、保健等に関する研究を指導する。</p> <p>(4 藤田紀昭) スポーツ社会学、障害者スポーツ分野の研究指導を行う。障害者のスポーツを含むスポーツ事象の発生機序、意味や構造、メディア分析、歴史社会学等の研究を指導する。</p> <p>(5 吉田文久) スポーツ人類学分野の研究指導を行う。伝統スポーツの伝承や存続条件、各時代、社会における生活構造とスポーツ文化の関係性や変遷の実態等に関する研究を指導する。</p> <p>(6 小林寛和) スポーツ理学療法分野の研究指導を行う。スポーツ動作、スポーツ障害の発生機序と防止方法、スポーツリハビリテーションの方法や効果等に関する研究を指導する。</p> <p>(7 三井利仁) 健常者および障害者のスポーツコーチング分野。健常者および障害者のコーチングの方法、コーチングに関するデータと分析、リスクマネジメントに関する研究を指導する。</p> <p>(8 住田 健) スポーツマネジメント、スポーツビジネス分野の研究指導を行う。スポーツ組織のマネジメントに関わる諸課題、法律やファイナンス、スポーツ消費者やマーケットセグメンテーション等に関する研究を指導する。</p> <p>(9 竹村瑞穂) スポーツ哲学、スポーツ倫理学分野の研究指導を行う。スポーツの価値、本質論、スポーツのエトスや倫理、インテグリティ、アンチドーピング等に関する研究を指導する。</p> <p>(10 西村直記) スポーツ生理学、環境生理学分野の研究指導を行う。高地環境下、寒冷環境下、暑熱環境下でのトレーニング効果や生理機能の変化、運動と熱中症や体温調節等に関する研究を指導する。</p> <p>(11 山根真紀) トレーニング方法分野の研究指導を行う。各ライフステージにおけるトレーニング効果、効果的かつ安全な運動処方、女性のトレーニング等に関する研究を指導する。</p> <p>(12 山本真史) 身体運動学分野の研究指導を行う。身体構造と機能、スポーツバイオメカニクス、運動と神経科学、運動制御に関する研究テーマを指導する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
(スポーツ科学研究科スポーツ科学専攻修士課程)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究指導科目	スポーツ科学研究Ⅲ	<p>本授業では調査・実験の結果を検討し、修士論文を執筆し、修士論文報告会で報告を行う。</p> <p>(1 新井 博) スポーツ史分野の研究指導を行う。ヨーロッパ、アメリカ、日本を含むアジア諸国における各時代におけるスポーツの実態や普及、組織化等に関する研究を指導する。</p> <p>(2 荒木雅信) スポーツ心理学分野の研究指導を行う。運動制御や運動学習、運動認知やメンタルトレーニング等選手や運動実践者の心理サポート等に関する研究を指導する。</p> <p>(3 白石龍生) 発育発達学、学校保健分野の研究指導を行う。運動や生活等各種条件による身体発育、発達の違い、学校の安全性や、児童生徒の健康、保健等に関する研究を指導する。</p> <p>(4 藤田紀昭) スポーツ社会学、障害者スポーツ分野の研究指導を行う。障害者のスポーツを含むスポーツ事象の発生機序、意味や構造、メディア分析、歴史社会学等の研究を指導する。</p> <p>(5 吉田文久) スポーツ人類学分野の研究指導を行う。伝統スポーツの伝承や存続条件、各時代、社会における生活構造とスポーツ文化の関係性や変遷の実態等に関する研究を指導する。</p> <p>(6 小林寛和) スポーツ理学療法分野の研究指導を行う。スポーツ動作、スポーツ障害の発生機序と防止方法、スポーツリハビリテーションの方法や効果等に関する研究を指導する。</p> <p>(7 三井利仁) 健康者および障害者のスポーツコーチング分野。健康者および障害者のコーチングの方法、コーチングに関するデータと分析、リスクマネジメントに関する研究を指導する。</p> <p>(8 住田 健) スポーツマネジメント、スポーツビジネス分野の研究指導を行う。スポーツ組織のマネジメントに関わる諸課題、法律やファイナンス、スポーツ消費者やマーケットセグメンテーション等に関する研究を指導する。</p> <p>(9 竹村瑞穂) スポーツ哲学、スポーツ倫理学分野の研究指導を行う。スポーツの価値、本質論、スポーツのエトスや倫理、インテグリティ、アンチドーピング等に関する研究を指導する。</p> <p>(10 西村直記) スポーツ生理学、環境生理学分野の研究指導を行う。高地環境下、寒冷環境下、暑熱環境下でのトレーニング効果や生理機能の変化、運動と熱中症や体温調節等に関する研究を指導する。</p> <p>(11 山根真紀) トレーニング方法分野の研究指導を行う。各ライフステージにおけるトレーニング効果、効果的かつ安全な運動処方、女性のトレーニング等に関する研究を指導する。</p> <p>(12 山本真史) 身体運動学分野の研究指導を行う。身体構造と機能、スポーツバイオメカニクス、運動と神経科学、運動制御に関する研究テーマを指導する。</p>	

学校法人日本福祉大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和2年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
日本福祉大学				日本福祉大学				
社会福祉学部		3年次		社会福祉学部		3年次		
社会福祉学科	400	40	1,680	社会福祉学科	400	40	1,680	
経済学部				経済学部				
経済学科	200	-	800	経済学科	200	-	800	
健康科学部				健康科学部				
リハビリテーション学科				リハビリテーション学科				
理学療法学専攻	40	-	160	理学療法学専攻	40	-	160	
作業療法学専攻	40	-	160	作業療法学専攻	40	-	160	
介護学専攻	40	-	160	介護学専攻	40	-	160	
福祉工学科	70	-	280	福祉工学科	<u>100</u>	-	<u>400</u>	収容定員増 (認可申請)
教育・心理学部				教育・心理学部				
子ども発達学科	215	-	860	子ども発達学科	215	-	860	
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400	
国際福祉開発学部				国際福祉開発学部				
国際福祉開発学科	80	-	320	国際福祉開発学科	80	-	320	
福祉経営学部		3年次		福祉経営学部		3年次		
医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	800	400	4,000	医療・福祉マネジメント学科 (通信教育)	800	400	4,000	
看護学部				看護学部				
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
スポーツ科学部				スポーツ科学部				
スポーツ科学科	180	-	720	スポーツ科学科	180	-	720	
計	2,265	440	9,940	計	<u>2,295</u>	440	<u>10,060</u>	
日本福祉大学大学院				日本福祉大学大学院				
社会福祉学研究科				社会福祉学研究科				
社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	30	-	60	社会福祉学専攻修士課程 (通信教育)	30	-	60	
心理臨床専攻修士課程	10	-	20	心理臨床専攻修士課程	10	-	20	
国際社会開発研究科				国際社会開発研究科				
国際社会開発専攻修士課程 (通信教育)	25	-	50	国際社会開発専攻修士課程 (通信教育)	25	-	50	
医療・福祉マネジメント研究科				医療・福祉マネジメント研究科				
医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	30	-	60	医療・福祉マネジメント専攻 修士課程	30	-	60	
福祉社会開発研究科				福祉社会開発研究科				
社会福祉学専攻博士課程	8	-	24	社会福祉学専攻博士課程	8	-	24	
福祉経営専攻博士課程	2	-	6	福祉経営専攻博士課程	2	-	6	
国際社会開発専攻博士課程 (通信教育)	4	-	12	国際社会開発専攻博士課程 (通信教育)	4	-	12	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻修士課程	10	-	20	看護学専攻修士課程	10	-	20	
スポーツ科学研究科				スポーツ科学研究科				
スポーツ科学専攻修士課程				スポーツ科学専攻修士課程	<u>10</u>	-	<u>20</u>	研究科の設置 (認可申請)
計	119	-	252	計	<u>129</u>	-	<u>272</u>	